

鳥取の手仕事

伝統の技と新たな挑戦 県東部地区の陶磁器

[第2回]

鳥取県内には、江戸時代が始まりとされているものや近年になって開かれたものなど、30軒近くの窯元があります。江戸時代からの伝統を受け継ぐものや日用の雑器を焼き続けているものなど、その作風はさまざまです。今回は県東部地区の陶磁器を紹介します。

伝統の登り窯とともに 旧鳥取藩御用窯

鳥取県東部は旧鳥取藩の藩政の中心地でした。その藩政時代に御用窯として栄え、その伝統を平成の今に受け継いでいる窯元があります。

八頭町久能寺にある「因久山焼」は、鳥取藩主池田侯に招かれた京都の陶工が築窯し、藩の御用窯として茶器などを焼いたのが始まりといわれており、現在でも茶道具を中心に、古くから伝わる登り窯で焼かれています。



下/刷毛目茶碗
右/海鼠袖水差
因久山焼の登り窯

民芸で復活 吉田璋也との出会い

藩の御用窯がある一方で、日用雑器を焼いてきた民窯も多くあります。昭和初期に柳宗悦らによつて展開された民藝運動の影響を受けた窯元が多く残るのも

鳥取県東部の大きな特徴といえます。

鳥取市河原町牛戸にある「牛戸焼」は、もともと江戸時代の天保8年に石州

(現在の鳥根県西部石見地方)から陶工・小林梅五郎が移住したのが始まりといわれます。代々日用品を作っていました。昭和初期、「五郎八茶碗」に魅せられた吉田璋也が牛戸焼を指導。見事民芸の窯元として活気を取り戻したのです。

また、河原町中井にある「因州中井窯」も吉田の指導を受けたことで民芸の道へ進みました。今では各々民芸の窯元として全国的に知られるようになり、そのモダンなデザインは今なお高い人気を得ています。

また、岩美町にも民芸の影響を受ける窯元があります。吉田璋也の導きで鳥取県出身の陶芸家、生田和孝に師事した山下碩夫、清志兄弟が鳥取へ帰郷後、長く途絶えていた磁器の窯「浦富焼」を再興。後に弟の清志氏が岩



牛戸焼四代目小林秀晴氏(鳥取市)に懇願して手元に戻した五郎八茶碗。

未来の匠を目指して

～延興寺窯・山下裕代さん～

沖繩の読谷山焼北窯松田共司氏に師事。2004年に帰鳥後、延興寺窯山下清志氏に師事。2006年から鳥取たくみ工芸店で父娘展などを開催。



延興寺窯では親子で作品作りを取り組んでいます。娘の裕代さんは高校卒業後、沖繩で3年間修行を積み帰郷しました。

「沖繩で、師匠の松田共司さんからひたすら基本を学んだ経験が今とても役に立っています」と話す山下さんが、作品作りで一番心がけているのは、使ってもらえるものであること。「でも、見た目の美しさや使いやすいのバランスってとても難しいんですよ」と山下さん。「用の美」の難しさ、奥深さを感じている毎日です。

そんな彼女が最近チャレンジした作品がこちらです。



上/一輪差し
下/ミルク注ぎ

ちよこんとしたかわいらしい2つの作品、実は真ん中がふくらんだ器(袋物)は、見た目のシンプルさと

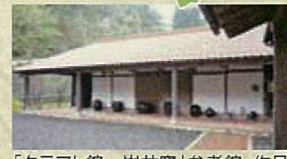
料理好きでもある裕代さん。「こんな料理を入れたいかなあ」と想像しながら器を作ることもあるそうです。



美町延興寺に「延興寺窯」を開き、素朴さと飽きない美を信条としていつまでも愛用される作品づくりに取り組んでいます。民芸の窯元とは少し違いますが、牛戸焼、因州中井窯のすぐ近く、河原町本鹿にこの2つの窯元を身近にみて育った前田昭博氏が開いた「やなせ窯」があります。様々な造形を表現したその美しい白磁は、国内外の展示会で数多く受賞し、高い評価を得ています。

吉田璋也の面影は 今もなお作り手の中に

かつて吉田は、鳥取民芸美術館で作り手に手本を示し、たくみ工



「クラフト館 岩井窯」参考館。作品づくりの参考にと製作者である山本教行(やまもと のりゆき)氏自らが国内外から収集した陶磁器、家具などが展示されている。



芸店で作品を人々に販売、たくみ割烹店で作品を実際に使うことにより、美と生活を結ぶことを試みました。この影響を「クラフト館 岩井窯」にみることでできます。ここには、作品を作る工房、作品を実際に使って味わうことのできる喫茶・食事処、作品作りの参考となる工芸品が展示された参考館が並んで建っています。この岩井窯で修行を積み、独立した窯元に、日々の生活に潤いを与える作品づくりを信条とする鳥取市青谷町の「山根窯」、岩美町牧谷に窯を構え個性豊かな作品づくりに挑戦している「牧谷窯」があります。



白釉面取ポット

詳しくは…
●とりネット
「とっとりの手仕事」(手仕事全般)
<http://www.pref.tottori.lg.jp/teshigoto>
「とっとりの工芸品」(伝統的工芸品)
<http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=95598>
●パンフレット「鳥取の手仕事」
(鳥取県市場開拓室発行)をご覧ください。

問合せ先 県庁観光政策課
電話 0857-26-7237

※名も無き職人によって生み出された日用の雑器や生活用具の中にこそ真の美しさがあるという考え方のもと、柳宗悦らによってそれまでになかった「美の価値観」などが提示された。